

枕崎市地域公共交通計画（素案）に関する  
意見公募手続（パブリック・コメント）の実施結果について

処 理 区 分	
A	意見の趣旨等を反映し、計画（案）に盛り込むもの
B	意見の趣旨等は、計画（案）に盛り込み済みのもの
C	計画（案）に基づく取り組みの検討に当たり参考にするもの
D	計画（案）に盛り込まないもの
E	その他要望・意見等

市民等からの意見の概要	処 理 状 況	処理区分
<p>P52 課題1「市民生活に必要な移動手段を確保・維持していくことが必要」について</p> <p>枕崎市内の移動や、鹿児島市内等への移動に関し、利用者ニーズに合った公共交通を充実していただきたい。</p> <p>鹿児島市内から枕崎市に通いたい通勤通学客や、夜まで鹿児島市内で用事のある枕崎市民のニーズは存在するが、ちょうど良い時間帯の公共交通手段がないため、これらのニーズに応える公共交通を構築していただきたい。</p>	<p>利用しやすいダイヤの整備は、地域の公共交通の一体性を確保し、ニーズに応えられる公共交通体系を構築するうえで重要であると考えます。</p> <p>ダイヤ調整や運行ルートの延伸につきましては、ニーズとともに交通事業者の運行体制にも配慮しつつ、使い勝手の良い公共交通を構築できるよう検討し、事業者に協力を要請してまいります。</p>	B
<p>P53 課題3「周辺自治体と連携しながら一体的に取り組を進めていくことが必要」について</p> <p>枕崎～鹿児島市内の移動の際、鹿児島市内まではスイスイ行けるが、鹿児島市内の渋滞がひどい。車社会が現状なので、車社会と公共交通が共存できる新たな交通形態を南薩広域で考えていただきたい。</p> <p>例として、南薩縦貫道を活用した、パークアンドライドを活用した新たな路線の構築。谷山からはJR、鹿児島市電が活用できる。1時間に1本位バスがあると、車利用者のシフトが期待できる。各バス停で駐車場の整備が必須。</p>	<p>鹿児島市の渋滞対策につきましては、鹿児島県交通渋滞対策協議会（国土交通省九州地方整備局、国土交通省九州運輸局、鹿児島県、鹿児島県警察本部、鹿児島市、西日本高速道路（株）で構成）で検討されており、時差出勤等を主体とした交通需要マネジメント施策や官民連携による渋滞対策等に取り組んでいます。</p> <p>南薩地域でのパークアンドライドなど新たな交通形態につきましては、前述の協議会の今後の施策展開を踏まえたうえで、鹿児島県全域など広域的な公共交通計画が策定される場合には、本市においても検討してまいります。</p> <p>しかし、現在のダイヤにおいても谷山駅に接続するバス路線があ</p>	D

	<p>ることに加え、駐車場整備、利用者の乗り継ぎ（1回とは限らない）による利便性低下の受容の意識醸成、交通事業者の経済的および労務的な負担の増加への対策、費用対効果など検討すべき事項が多く、関係者が合意形成するには相当の時間を要すると考えられます。</p> <p>関係者の合意がないまま、本市単独の計画に盛り込むことは避けるべきと考えるため、今回の計画には盛り込みません。</p>	
<p>P57 方向性3 ⑩「鉄道と路線バスの一体的利用の促進」について 観光客の利便性向上のため、共通乗車券だけでなく、南薩全体の鉄道&amp;バスのフリーパスの整備をしてはどうか。</p>	<p>フリーパスや共通乗車券の導入が観光客の利便性向上につながることはご意見のとおりと考えます。</p> <p>具体的な施策の展開にあたりましては、近隣市や交通事業者、観光協会、観光施設などの関係者とも意見交換・情報共有を行い、合意形成が図られた後進めてまいります。</p>	B
<p>P58 方向性5 ⑱「市街地内を循環する新たな移動サービスの導入」 病院・買い物・観光スポットを回り、観光・市民日常ニーズを満たす枕崎市内周遊バスを30分に1本程のダイヤで導入してはどうか。</p>	<p>市内を周遊する手段につきましては、バスに限らず新たなモードの導入も視野に検討します。</p> <p>目的地までの移動ニーズや所要時間、利用者属性などを多面的に検討したうえで、運行ルートやダイヤ等を設定し、利便性の高い公共交通の構築に努めてまいります。</p>	B
<p>P66 施策⑥「観光周遊促進策の展開」について P75 施策⑫「乗り継ぎ環境の整備」について 枕崎駅と枕崎バス停において、鉄道とバスの接続が取られておらず不便を強いられている。 公共交通全体のダイヤを調整し乗り継ぎ環境を整えば、利用者の増加につながるのではないかと。 また、加世田方面へのバスは、ウイスキー蒸留所の前を通るので、指宿方面からのJRの乗り継ぎが便利になれば、アルコール類を嗜みたい層の観光需要も見込めるのではないかと。</p>	<p>利用しやすい環境の整備が、新たな需要の掘り起こしにつながることはご意見のとおりと考えます。</p> <p>具体的な施策の展開にあたりましては、近隣市や交通事業者、観光協会、観光施設などの関係者とも意見交換し検討してまいります。</p>	B

<p>P74 施策⑩「公共交通空白地域・不便地域における新たな移動サービスの提供」について</p> <p>通学方法の現状を調査・把握したうえで、福祉バス等を利用した「新たな移動サービスの提供」の検討をすべきではないか。</p>	<p>義務教育における通学手段の確保につきましては、第一に教育分野における課題として検討されるべきものですが、本計画の施策展開におきましても、教育、まちづくり、観光振興、健康、福祉、環境等の部署と連携を図り、また、地域の輸送手段を総動員して、様々な課題の解決に努めてまいります。</p>	C
<p>P80 施策⑮「観光・公共交通情報の提供」について</p> <p>高校生が通学する際や、高齢者等の通院・買い物の際に、紙媒体による時刻表の要望はあると考えられる。事業者と連携して地域の時刻表の制作を検討されてはいかがでしょうか。</p>	<p>時刻表につきましては、計画（素案）に記載のとおり、アナログ（紙媒体）、デジタル（電子媒体）を活用して積極的な情報提供に取組みます。</p>	B
<p>P81 施策⑯「デジタルサイネージの導入」について</p> <p>P82 施策⑰「リアルタイムな情報提供の実施」について</p> <p>デジタルサイネージの導入について触れられていますが、JR九州の「どれどれ」のような運行情報についても情報があると、利用者の利便性向上につながり利用増につながると考えられます。</p>	<p>運行情報につきましては、計画（素案）に記載のとおり、デジタルサイネージやスマートフォンでの情報伝達を展開してまいります。その一つとしてJR九州の「どれどれ」の枕崎駅までの情報提供の拡充につきましても、事業者に協力を要請してまいります。</p>	B
<p>枕崎駅周辺は、無料で駐車できるスペースが駅周辺にあるものの、実際は地元住民の通勤者に占められており、本来の利用からは逸脱している。その改善も必要と思われまます。</p>	<p>関係課と連携して、改善に努めてまいります。</p>	E